

## AI・GX社会に向けた電材業界の未来

～エッセンシャル技術技能職の時代の始まり～

全日本電設資材卸業協同組合連合会 会長  
小島電機工業株式会社 代表取締役社長

小島 寿之 様



電材NEWS

2026

No.  
74

- 1 [巻頭インタビュー]  
AI・GX社会に向けた電材業界の未来  
～エッセンシャル技術技能職の時代の始まり～
- 5 [特別インタビュー]  
GX ZEHの基準とZEHの未来
- 9 計画的なLEDリニューアル お取り扱い事例  
広島市立大学様
- 11 木造店舗での「Nearly ZEB」認証取得 お取り扱い事例  
株式会社オートボックスセブン様

- 13 電気工事協同組合様 お取り扱い事例  
岐阜県東部電気工事協同組合様
- 15 電気工事会社様の「人材育成」お取り扱いご紹介  
マエダ電気工事株式会社様
- 19 GX志向型住宅 お取り扱い事例  
エルクホームズ株式会社様
- 21 新商品情報
- 23 脱炭素化に向けた新たな省エネ基準「GX ZEH」

本誌では略称を用いています。また敬称は略させていただきます。

近年、生成AI(人工知能)の発展は著しく、各産業のさまざまな職種・職域に影響をもたらしています。電材業界では、真の「働き方改革」実現に向けて、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進。さらに、新たに取り組むべき課題として、GX(グリーントランスフォーメーション)も顕在化してきました。こうした外部環境の変化と共に、業界を担う経営者や人材の確保といった内部環境における課題に対し、電材業界はどのように未来を切り拓いていくべきなのでしょう。全日本電設資材卸業協同組合連合会の小島会長に、お話を伺いました。

若手経営者が中心となって環境を俯瞰  
将来を見据えてアクションプランを策定

→まずはじめに、全日本電設資材卸業協同組合連合会様(全日電材連)の概要について、教えてください。

小島様:当連合会は、電気設備材料の製造会社の販売窓口として、また、電気設備工事会社との橋渡しとして、商品の流通、商品情報の提供、信用の供与といった卸機能を持った電設資材卸会社の、各都道府県の組合の全国組織として、昭和48年に任意団体として発足し、昭和58年に法人化しました。

2025年11月現在、全国11のブロックに29の組合があり、所属している組合員数は685社、本社数483社です。会員のために必要な共同事業を行い、電気設備工事に必要な資材、機械器具および関連材料の販売に従事する電設資材卸会社の運営に関わるさまざまな総合調整指導、および情報の収集、ご提供等の活動を通じて、会員の経済活動の自主性を重んじつつ、社会的地位の向上を図ることを目指しています。

目的を達成するために「総務」「市場活性」「経営」「広報」「次世代プロジェクト」の5つの委員会を組織し、業界課題の解決に向けた事業を推進しています。

中でも「次世代プロジェクト委員会」は、平成30年に私が副会長の時に「SIプラス委員会」から名称変更し、平成28年に立ち上げた「若手経営者の会」のメンバーを中心として将来ビジョン策定のために発足されました。そして令和2年に策定したのが「アクションプラン2030」です。

→アクションプラン2030について、詳しく教えてください。

小島様:アクションプラン2030は「WAKU WAKU DENZAI」のスローガンを掲げ、2030年に向けての事業指針の立案です。2050年カーボンニュートラルや生成AIの台頭をはじめとする電材業界を取り巻く外部要因と、電力の自由化やECなど商流の変化といった業界内部要因を、経営的観点から俯瞰し、10年後、20年後の次世代の働き手たちが集い活躍できる、魅力的で持続可能な業界の創出を目指しました。

「WAKU WAKU DENZAI」の「WAKU WAKU」とは、業界・組織への愛着が高まって気持ちがワクワクする意味と、業界の需要が高まって「仕事が湧く」を掛けています。重点施策を成長拡大戦略と安定戦略から考え、製品単体の販売から、省エネ・SDGs関連、脱炭素素材の提案営業といった、ソリューションビジネスに転換しました。また、業界の知名度向上、市場規模の拡大、工・製・販の連携強化といった3つの方向性を掲げました。このアクションプランを通じて、若手経営者が中心となって、将来に向けた需要と成長性、継続性が高いインフラ市場を担う電材業界の未来の構築を試みています。

→どのような支援策がありますか。

小島様:代表的なものが機関誌「NEW WAVE」の発行です。設立の翌年から発行してきましたが、時代の流れに即して内容を刷新し、最近では、各賛助メーカー様にSDGsへの取り組みについて、毎月インタビューさせていただき、掲載しています。

また、近年特に力を入れて取り組んでいるのが「ワクワクYouTube」です。こちらは研修動画になっており、パナソニック エレクトリックワークス創研株式会社と協力して制作しています。以前はリアルで研修会を行っていましたが、地方の会員の方はなかなか参加できませんでした。動画ですと、いつでもどこでも視聴していただくことができ、大変好評です。また、内容も旬のものだけを十数本残すこととして、古いものは順次削除しています。

「若手経営者の会」には、30代から50代後半までの約100名が入会されています。定例会にはWEBでの参加も可能で、毎回70名ほどが参加しています。「うちはこんな取り組みをしている」といった声を出し合って、研修会で講師となって事例発表をしてもらっています。例えば最近では、社内でのAI活用事例を発表してもらいました。

**WAKU WAKU DENZAI** WAKU WAKU DENZAIの  
ロゴマーク。  
「W」は人を表現。  
2030 JEDA アクションプラン

